

【メディアはいま……復興業界紙という“ブレイクスルー”の登場】

「東北復興新聞」創刊!——復興の担い手に向けて、「情報で復興を加速する」

政府の東日本大震災復興基本方針では当初5年間で「集中復興期間」と位置づけられて国費19兆円が投入される。単純計算で年間約2兆円。これが被災地のまちづくり、産業創造、雇用創出に向けた大きな投資を導き、一大市場を形成、被災地を活性化させる起爆剤となることは間違いない。そしてビジネスのあるところには情報が流通し、専門メディアとして“業界紙”が登場する。“復興業界新聞”「東北復興新聞」が1月16日、創刊第1号を発行した。



「東北復興新聞」創刊号より。被災地での新しいまちづくりに伴い、産業と雇用の創出に向けた復興事業が本格化する。そうなれば当然、復興産業とも言えるべき新たな経済活動が活性化し、参入企業等のビジネス情報ニーズが高まる。そうした情報を迅速にとりまとめ、よりよい復興へと導く役割を担うのが“復興業界紙”だ

本紙・本号の特別企画テーマと重なるが、「東北復興新聞」もまた創刊号で「各地で続々オープンする復興食堂・商店街の課題」を取り上げているので、一読を(下記にリンク)。

「東北復興新聞」はその創刊趣旨を「被災地で活躍する『復興の担い手』の情報発信、収集のお手伝いをするので、良き取り組みの横展開させ、復興の加速のきっかけになることをめざす」としており、いわゆる業界紙とは趣を異にしたソーシャルビジネスをめざす。想定する読者は、復興に携わるNPO等の団体、中央官庁、被災自治体、支援企業・財団等、発行部数は創刊号は1000部でスタート、媒体はあえて“紙”としたものでタブロイド判8ページ構成、価格は無料、月2回発行する(同ホームページ=下記参照でも紙版とほぼ同じコンテンツを閲覧可)。

発行所は「NPO法人HUG」(東京都渋谷区。本間勇輝・代表、本間美和・東北復興新聞編集長)で、「世の中を良くするために世界中で頑張っている人や団体を、情報発信等のコミュニケーションの分野で手助けする中間支援組織」をめざす。

本紙からの“業界新聞”という位置づけについての問い合わせにHUGは、「震災後多くのメディアが登場したが、テーマやエリアを横断してのものは非常に少ない。特に多忙な復興の担い手には情報を取りにいくウェブ媒体だけでなく、編集された紙で情報を届けることが重要と考えている。読者層をあえて一般市民ではなく実際に復興に携わる団体や企業、自治体として、中立で(かつ応援者である)メディアの立場から、業界内の横連携を促進したいと考えた」、「今後、東北3県でのパートナーシップ構築を拡大し、現地記者の発掘・育成も視野に入れつつ、より良い記事を復興関係者に届けていきたい」としている。

なお、本間美和・東北復興新聞編集長は“ソーシャルトラベル”という新たな社会貢献のライフスタイルを実践・提唱している。

[>>「東北復興新聞」](#)

[>>HUG](#)

“ソーシャルトラベル”……「リンゴを届けてお買い物」、「お遍路プロジェクト」

■リンゴを届けて現地でお買い物バスツアー

青森市の市民団体「東日本大震災の被災地を支援する青森の会」(渋谷 進会長)が岩手、宮城、福島にリンゴを届け、現地で買い物をするバスツアーを2月11日(宮古市田老地区、日帰り)、3月31日(石巻市、日帰り)、5月(日程未定・1泊2日、南相馬市と会津若松市)の3回、実施する。ツアーは青森市発着。参加費は第1、2回が各・大人5000円、高校生以下3000円。第3回は大人1万5000円、高校生以下1万円。希望者はそれぞれ10日前までに参加費を添えて申し込む。連絡先は「青森の会」事務局017-777-6200。

■「東北のお遍路」プロジェクト、始動!

1000年先まで語り継ぎたい巡礼ポイントを一般公募

東日本大震災による犠牲者の慰霊と巡礼の道づくりを計画する東北4県の市民団体「震災巡礼東北の道を考える会」(新妻香織代表)が、福島県から青森県までの被災沿岸地域に88カ所に慰霊・鎮魂のための巡礼ポイントを一般公募でつくるプロジェクト、「東北お遍路(こころのみち)」プロジェクトを発足。去る1月21日に公募をスタートした。

「四国八十八箇所」のように全国・世界から「震災巡礼東北の道」に犠牲者を慰霊する多くのお遍路さんをお呼び込むことで、津波の記憶の伝承、農漁業・観光業など地場産業の再生・活性化、新たな交流の場の創出を図り、自治体の枠を超えたネットワークで防災や福祉のあり方を考える機会へとつなげる。震災から500日目に当たる本年7月24日に、「1000年先まで語り継ぎたい巡礼ポイント『震災巡礼88カ所』」の発表を予定。

プロジェクトに共感するすべての人を対象に、Eメールや手紙、ファクスなどで「犠牲者の慰霊・鎮魂に最もふさわしい候補地」の応募をお呼びかけしている(締め切り:3月11日)。

[>>「震災巡礼東北の道を考える会」](#)



「被災地に『希望の種』を蒔きたい」との考えから発案された「東北のお遍路(こころのみち)」プロジェクト・ホームページより。同会は、「福島第1原発事故で警戒区域になっている福島県沿岸部でも、巡礼ポイントを選定したい」意向